

## サシバエの生活環と乳房炎予防のためのサシバエ対策

### 1. サシバエの生活環を知ろう

#### ①サシバエの生活環

下の表はサシバエとイエバエの生活環の比較です。サシバエは牛の血液を好み、餌が血液である為に栄養状況は極めて良い状況になります。その結果多くの卵を産み、サシバエが爆発的に増える感じを畜産家に与えます。サシバエの成虫は涼しい時期になると出現する（暑さに弱い、寒さに弱い）ので、季節では秋口や春先に出現します。また、季節により、朝から出現したり、昼に出現したりします。従ってサシバエの出現状況は、その時の気温（日内変動）に大きく左右されます。

気候条件が良ければ、10日から14日で卵から成虫にまで成長します。本州などでは、11月になっても日中の気温が上がった時には出現し、雄雌共に吸血します。1日の中での出現時間は、その時の気温に影響されます。サシバエの出現により、牛舎内の牛に異常行動が見られます。

種類	イエバエ		サシバエ	
種特異性	全畜種で見られる(人の周辺)		主に牛舎で見られる	
食性	雑食性：腐敗物、死骸、家畜糞など		動物の血液：特に牛を好む	
口器	舐食性		吸血性（雄雌とも 朝、夕2回吸血）	
発生源	有機物の多い場所（家畜の糞便）		家畜糞、堆肥	
発生時期	1年中（初夏、秋が特に多い）		涼しい時期（春先、秋）	
生活環	卵	12～24時間	1～2日	
	幼虫	4～10日（温度により異なる）	5～14日	11～16日
	蛹	4～11日（温度により異なる）	4～10	
	成虫	15～60日	10～30日	
産卵数	50～100個		300～800個	
	1回数個～数十個、4～6回産卵		1回100～200個、3～4回産卵	
吸血量			吸血量：♂ 4.8mg、♀ 6.2mg	

資料提供：ハイエル社

#### ②サシバエとイエバエの違い

##### 1) 成虫の違い

肉眼で判るサシバエとイエバエの違いは、頭部と羽です。頭部を観察するとサシバエは針がありますが、イエバエにはありません。また、羽の広がりには違いがあり、サシバエはより広くウイングを広げ、体と羽根で正三角形を形成します。イエバエは、羽根の広がりが少なく、2等辺三角形を形成します。

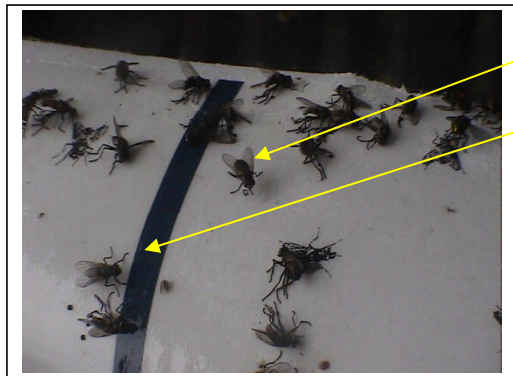
その他牛の行動でも違いを観察できます。サシバエは吸血し、その時に痛みを生ずるので、牛の行動が変化します。頻りに尾を振り回す。皮膚が震える。腹の下を蹴るなどの仕草が見えます。

その結果牛が落ち着かなくなります。群飼いの牛舎では、牛がある一定の場所に集まりかたまります。これは、牛が集まることによりその場所の気温を上げ、サシバエの最適温度から自分たちのいる場所を上げる為です。しかし、これにより牛自身も暑さのダメージを直接受けます。寝ることができない、休息ができない、餌が食べられないなどにより、乳房炎・繁殖障害・乳量の低下など、経済的ダメージを受けます。

吸血後のサシバエ 頭部に針がある。



イエバエ 針がなく羽の広がり小さい



頭部に針が見えるサシバエ

針がないイエバエ

## 2) 幼虫 (うじ)

サシバエの幼虫は、スリムで細長く、先がとがっています。一方イエバエのウジは、太く大きくコロコロした感じがします。牛糞の中ではサシバエが多く、汚れ(汚物)ではイエバエが多くみられます。サシバエの幼虫は、水分の多い所にいますが、蛹は比較的水分の少ない所にいます。

サシバエの蛹と幼虫 (うじ)



サシバエ蛹の抜け殻



イエバエの幼虫 (うじ)



サシバエの蛹は、ご飯粒より一回り小さく、赤いのが特徴です。抜け殻は、黒く小さくなり、ネズミの糞を思わせます。これが見つかった場所は、発生源であり好発場所なので掃除と薬剤散布が必要です。